



三位電気株式会社

どこよりも丁寧な仕事で顧客の信頼を得る 埼玉県内トップの総合電気工事会社



三位電気株式会社

代表取締役社長 佐藤 仁 氏

住宅やオフィスビル、工場、病院など、さまざまな建築物の電気設備工事を手掛け、屋内電気工事分野において埼玉県内トップの売上高を誇っている三位電気。とくにマンションにおける施工実績が豊富で、1,000戸を超えるような大規模マンションの電気工事も多く請け負い、近年では2021年に開催された東京オリンピック・パラリンピック選手村の工事も同社が手掛けている。

1971年の創業以来、技術力や対応力を強みとして順調に業績を伸ばし、その丁寧な仕事ぶりは元請けであるゼネコン各社からも高い評価を得てきた。社内各部署や現場に携わる協力会社がともに支え合い、一体となって「名実ともに、優れた魅力ある会社づくりを目指す」という企業理念のもと、さまざまな課題に挑戦し続ける佐藤仁社長にお話をうかがった。

LEADER'S PROFILE

1962年、埼玉県生まれ。大学卒業後、電気工事会社に就職し、3年ほど勤務した後、父・照彦氏が71年に創業した三位電気に入社。その後は電気工事の現場管理の仕事に携わり、会社が創業40周年の節目を迎えた2011年4月、現職に就任。経営者として絶対的な安全を保つことで、社員や協力会社の「笑顔と健康」を守ることを常に心掛けている。父・照彦氏が日本大学の相撲部とかねてより親交が深かった縁から、2022年からは大相撲の大栄翔関、翔猿関、遠藤関ら幕内力士を擁する追手風部屋（埼玉県草加市）の全国後援会長を務めており、所属力士たちの毎場所の活躍を楽しみにしている。

創業者が社名に込めた思い

— まず御社の電気設備工事業について、事業の概要や現在の取り組みなどを教えてください。

現在はマンションやオフィスをはじめ、商業施設や医療施設、高齢者施設など、幅広い施設の電気工事を手掛けています。建物内で安全に電気が使えるよう、配線工事を行うのが当社の主な仕事ですが、工事とはいっても当社の社員が実際に力仕事をするわけではなく、全体の工程や安全、品質、予算などの現場管理・監督が業務の中心となります。川口市が旧本庁舎跡地に建設している新庁舎も、来年6月の完成に向け、当社が今まさに工事を進めているところです。現場で管理・監督業務を行う人のことは「現場代理人」と呼び、現場での最高責任者の役

割を務め、現在当社には見習いを含めて現場代理人が70名ほど在籍しています。

当社では長年にわたり社会貢献や地域貢献にも注力してきており、毎年5月にはチャリティーゴルフ大会を開催し、寄付金を福祉事業にお役立ていただいているほか、ボランティアで献血活動に参加したり、地元川口市の緑地保全活動に協力したりといった取り組みを行っています。昨年5月には、地域・社会や環境との共生を目的として、埼玉県が発行するサステナビリティボンドである「埼玉県 ESG 債」に投資するなど、SDGsへの重要性を認識し、さまざまな取り組みを進めています。

— そうした活動を行う会社を立ち上げられたのは社長のお父様だとお聞きました。

当社は父が設立しました。会社設立以前の父は、東京都内の電気工事会社に勤めていて、現場の施工



施工実績 川口市役所新庁舎（2020年度）



部のトップを任されていました。しかし、その勤めていた会社が施工部を廃止する方針となり、部内の所属メンバーがリストラされることになってしまったのです。父だけはそのまま異動して会社に残ることもできたようですが、「一緒に働いてきた仲間たちを見捨てて、自分ひとりだけ残るわけにはいかない」と考え、部下だったメンバー10人と一緒に独立し、1971年に資本金300万円で当社を立ち上げました。当社の三位電気という社名には、「営業・工事・業務」という社内の各部門が三位一体となって、1つの目標に向かいながら発展・飛躍していきたいという父の思いが込められています。

職人の腰道具にも気を配り、信頼と実績を獲得

——とくにマンションでの施工実績が多いというのは何かきっかけがあったのでしょうか。

創業当時の埼玉県は人口も今よりずっと少なかつ



チャリティゴルフ大会パーティ

たわけですが、70年代後半から80年代にかけては東京への通勤圏として人口が右肩上がりが増え、住宅建築も盛んになっていき、当社もそうした追い風に乗って業績は順調に伸びていきました。マンション建築を手掛ける大手ゼネコンからの仕事を30年ほど前に引き受けた際、当社の丁寧な仕事ぶりが評価され、次もまた仕事をお願いしたいという話が施工後にあり、それ以降はマンションの仕事を多く受けるようになっていきました。その頃はゼネコン各社がこぞって協力会社を探している時期で、技術力だけでなく、さまざまな面で信頼して仕事を任せられる業者を探していたのだと思います。

その後も施工実績がその次の仕事につながり、その実績がまた次の仕事につながるといったように、他からも多く声がかかるようになっていきました。手掛ける工事件数が増えていくことで、さまざまなノウハウが蓄積されていき、結果として難しい工事や1,000戸を超えるような大規模マンションの工事でも任せてもらえるようになっていきました。

——丁寧な仕事ぶりが評価されたということですが、どのようなことを行っていたのでしょうか。

電気工事は最終段階になってくると、壁一面にきれいなクロスが張られた後や、床にピカピカのフローリングが敷かれた後に行ったりします。その状態でスイッチやコンセントの配線器具や照明、換気装置などの取り付けを行なうとなると、何らかの拍子で壁を汚してしまったり、床を傷付けてしまったりといった可能性があるため、より細心の注意を払わなくてはなりません。手や履物をきれいにして作業



施工実績 川口市立高等学校 (2018年度)



施工実績 晴海フラッグ (東京五輪選手村) (2024年度)

することはもちろんですが、以前から当社の現場では、職人さんたちが複数の工具を腰回りに身に付けて一度に持ち運ぶための腰袋を使用することを止め、腰から外して手提げ袋で運ぶようにしています。

今ではこうした取り組みはどこの会社でも当たり前ようになってきていますが、以前はそうではありませんでしたので、現場代理人指導の下、そうした丁寧な仕事を徹底する習慣を当社の協力会社の職人さんたちにもお願いしてきました。細かいところまで配慮することが、高い品質を保つことにつながっていくものと考えています。

品質を大きく左右する現場代理人の仕事

—— 現場代理人とは具体的にどのような仕事をされるのでしょうか。

具体的には、まず元請けであるゼネコンから渡された設計図をもとに、電線やケーブルの配線・配管、スイッチやコンセントの取り付け位置などを示した施工図を作成します。そして、施工図に基づきながら、職人さんたちに指示を出し、作業を順次進めてもらいます。

施工図は平面図のため、例えば床下で水道管と電気の配線が上下で立体的に交差するようなケースでは、どちらが上でどちらが下になるか、その間隔はどのくらいかなど、職人さんは一目では的確な判断が付きません。そこで、現場代理人が口頭で具体的に説明する必要があります。施工図を作成している段階から、「ここは現場で説明が必要だな」とチ

ェックしておくことで、現場で齟齬なくスムーズに作業が進むようになります。

現場作業で必要になる電線やスイッチ類の資材を発注するのも現場代理人の大事な仕事で、工事に必要な材料の費用、消耗品や事務所維持管理費などの経費を算出して収支も管理し、各現場の予算管理を行います。その際に重要なのが、スケジュール管理と安全管理で、工事の品質についても目を光らせています。ひとつの建物を多くの人たちと協力して完成させるため、技術的なことはもちろん、対外的に高い折衝力やコミュニケーション力が求められる仕事です。

—— 現場でのチーム力や一体感が重要になってきますね。

職人さんたちは当社の仕事に慣れている方ばかりではありませんし、他の作業をしている電気工事以外の業者も出入りしていますので、そういった方たちとのコミュニケーションも重要になってきます。

例えば、配管工事より先に壁にコンクリートを打ち込んでしまうようではこちらの工事ができなくなりますから、コンクリートの施工業者との間で事前に作業スケジュールを調整しておく必要があります。万が一、情報共有や意思疎通が上手くいかなければ、余計なコストがかかることになり、工事全体のスケジュールに狂いが生じてしまいます。

—— 安全管理はどのように行っているのでしょうか。

人命にかかわるような重大事故は絶対にあってはならないことです。たとえ小さなミスであっても、



三位会総会

そのひとつのミスがこれまで積み上げてきた信頼をゼロにしてしまいかねません。現場の職人さんが少しでも「これは危ないな」と感じる事があれば、すぐに現場代理人に伝えてもらい、それを小まめにチーム間で共有していくことで、事故につながり得る芽を摘み取ることができます。

当社の毎年のイベントとして、7月には必ず「三位会」の総会を開いており、取引先である協力会社とともに、そこで決算報告や来期展望などを話し合っています。その総会が終了した後は、会場を移動し、安全衛生について皆で改めて意識を醸成する「安全大会」を行っています。その会のなかでは、最も安全優良だった現場を担当した現場代理人のほか、安全確保に最も貢献した協力会社や、その職長さんたちを表彰するほか、安全・品質パトロールの結果報告や毎年度の安全スローガン発表なども行っています。

今年度スローガンは、「安全は声かけ手間かけ時

間かけ 災害事例を参考に みんなで築くゼロ災害」としました。少しでも体調に不安がある時には必ず休憩するといった基本行動を徹底し、チームで結束することで事故が減り、ゼロ災害を達成することにつながります。こうした取り組みを通じて、改めて安全に対する意識を全員で高め、安全管理体制のいっそうの充実を図るようにしています。

働きやすい職場環境を整え、初の売上高 100 億円突破へ

—— 工事実績をこれまで順調に積み重ねていますが、この先についてはどのようにお考えでしょうか。

協力会社でも職人不足に悩んでいる状況もあり、現状ではこれ以上無理に受注を伸ばそうとは考えていません。1都3県での工事がメインになりますが、北関東や東北の案件でも受注することもあります。

大規模プロジェクトになると4～5名の現場代理人がチームを組んで管理・監督していく必要があるため、見習いを除く現場代理人が請け負える工事数にも限界が生じつつあります。これをオーバーする工事数を引き受けるとなると、現場での管理・監督が行き届かなくなり、重大な事故を引き起こすリスクが高まってしまいます。今年4月からは建設業でも時間外労働の上限規制がスタートしますので、これまで以上に全体の仕事量を考慮して受注していかなければなりません。

——現場での業務効率化に向けて、何か取り組まれているようなことはありますか。



安全大会

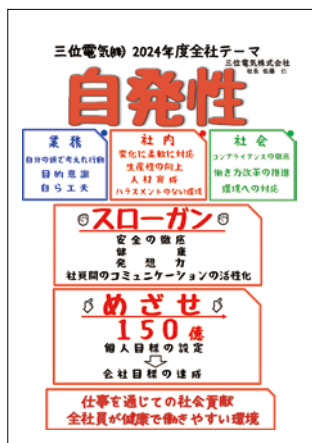


安全大会

2024 年全社テーマ

自発性

全社テーマは社内各部署や
各自の机に掲示



年頭の辞で全社テーマを発表（2024年1月）

すべての現場管理人に1台ずつタブレット端末を支給しています。以前は施工図を何枚も紙で持ち歩く必要がありましたが、今ではそういったことはなくなりました。会社から現場に必要なデータを送信できるので、効率が飛躍的にアップし、時間削減やペーパーレス化に大きく貢献しています。外出先からでも社内ネットワークへ直接アクセスできるよう、セキュリティも強化したことで、書類の決裁処理などでその都度会社へ戻るようなこともなく、迅速に外出先から処理することができています。

コロナ禍を機に始めたオンラインでのリモート会議も当たり前になり、現場から会議に参加できるので、今では大幅な時間削減となっています。遠い現場になると、会社から車で片道1～2時間かかるような場所もあるため、往復ではその倍になりますから、移動にかかる時間と労力を削減し、その時間を現場管理に充てられるようになったことは大幅な成果です。出退勤管理もパソコンやスマートフォンからできるようになっており、以前はタイムカードで管理していましたが、クラウド型の管理システムを導入したことで、勤怠状況がリアルタイムで集計できるようになり、労務管理の効率化につながっています。

その他にも、スケジュール管理や社員同士のコミュニケーション手段として「LINE WORKS（ラインワークス）」というビジネス版のLINEアプリを導入するなど、建設現場の生産性向上がよりいっそう求められていくなかで、より効率的で働きやすい

職場環境づくりのための取り組みをさまざま行っています。

——若手人材の採用や育成の現状はいかがでしょうか。

今は新規採用は売り手市場の世の中ですので、なかなか厳しい面もありますが、そうした状況でも毎年若手人材を採用できており、大切に育てていかなければなりません。入社後はベテランの先輩社員に付きながら、現場管理の仕方や施工図の書き方のほか、職人さんたちとのコミュニケーションの取り方などもOJTで丁寧に教えていき、資格を取得する教育も社内で行っています。

日々経験を積み、努力しながら、現場代理人として一人前にやっていけるようになるまでには4～5年はかかりますし、大規模な工事を任せられるようになるまでには10年くらいかかります。必要に応じて外部研修も活用しながら、資格の講習費用を補助するといった資格取得支援制度も整え、社員のスキルアップをサポートしています。

最近では女性社員の採用も増えてきています。現在70名ほどいる現場代理人のうち、1～2割を女性が占めるようになっていて、今年度採用した4名のうち3名は女性でした。現場で力仕事をやるわけではありませんし、いろいろな意見を聞きながら、今は更衣室や休憩室、トイレといったハード面での労働環境も以前より大きく改善されている現場が増えているので、女性でも働きやすくなってきています。去年は忘年会も社員全員が参加しやすくなるよう、皆で話し合っただけではなく



昼間の業務時間に行うようにしました。日頃から社員にさまざまな意見を出してもらうことで、より働きやすい職場環境を整えることができるようになり、小さな改善がやがて大きな目標達成に繋がっていくものと考えています。

——最後に、今後の目標について教えてください。

当社では毎年仕事始めの日に、その年の目標として全社員の統一テーマを私が発表しています。そのテーマに向かって各々が目標を立て、自らを成長させていく機会になればと考えており、2024年の全社テーマは「自発性」としました。他者からの働きかけや影響ではなく自らの動機付けで行動する姿勢や、他人に影響されず、自分の意志で物事を進めることが大切ではないかと考え決めました。

ここ数年はコロナ禍であっても幸い安定した業績を維持することができており、年間の売上高は80～90億円台で推移しています。今期はさらに売上高を伸ばし、初めて100億円の大台に乗る見込みで、今後も埼玉県内の屋内電気設備工事における売上高ナンバーワンとして頑張っていきたいです。

日本はこれからますます人口減少の時代に入っていくため、確かに将来的には新規需要は減ってしまうでしょう。しかし、需要がゼロになるわけではありません。まだまだ売上を伸ばせる余地はあります。たとえ市場は縮小していったとしても、そこでのシェアを高めていくことが重要です。競争はより激しくなっていくとは思いますが、そのためにもより丁寧で質の高い仕事をしていくことが重要になっていくと考えています。まずは2年後に迎えること

取材後記

武蔵野銀行 南浦和支店
田中 功一 支店長



三位電気株式会社様は、電気工事及び電気通信工事を行う総合電気工事会社として、これまでに大規模分譲マンションや商業施設、医療施設、高齢者施設、工場、官公庁施設など幅広い施設の電気工事を数多く手掛けております。

東京オリンピック・パラリンピックの選手村についても当社が携わっており、国際的な大会においても当社の技術が詰め込まれております。

創業以来53年。長きにわたって積み上げてきた安全な工事に臨む確固たる姿勢、工事技術の高さと細やかな配慮—これらが同社の圧倒的なブランド力となっています。

同社の社名には「営業・工事・業務」が「三位一体」となり、ひとつの目標に向かっていくという意味が込められています。今後も「技術」と「安全」で未来を切り拓いていく同社を当行としても良きパートナーとして経営課題を共有し、引続き積極的な協力を行うとともに、更なる企業発展に向けて微力ながら貢献していきたいと考えております。

となる創立55周年に向け、これまでの出会いや絆を引き続き大切に、当社自慢の技術力をさらに磨き上げ、お客さまや地域社会とともに発展していく所存です。



■三位電気株式会社 概要

本社所在地：埼玉県川口市大字小谷場 531 番地
設 立：1971年（昭和46年）10月
資 本 金：5,000万円
従 業 員 数：94名（2024年1月時点）
事 業 内 容：総合電気工事業
取 引 店：南浦和支店

